

便利な田舎暮らし『ヒト、モノ、情報、あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”』

京都府舞鶴市（2019年度選定）

<h3>1. 地域の特徴と課題及び目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本州のほぼ中央部、日本海が最も湾入した京都府北東部に位置し人口は 83,990人。 ▶ 重要港湾「京都舞鶴港」を擁し、関西経済圏の日本海側における「国防」「海の安全」「エネルギー」「太平洋側の大規模災害時におけるリダンダンシー」「広域観光」「ものづくり産業」の拠点機能を担う重要な地域。 ▶ 都会にはない豊かな自然や歴史・文化を有し、少し足を伸ばせば京阪神にアクセスできる。 ▶ 地域資源と多様な連携を生かし「心が通う便利で豊かな田舎暮らし」を目指している。 	<h3>2. 関連するゴール</h3> 
<h3>3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</h3>	<p>【舞鶴版Society5.0実装推進事業】 企業や教育機関と連携する中で A I や I C T 等の先進技術を積極的に導入し、エネルギーや交通、生活（マッチング・キャッシュレス）、公共（インフラやヒトの見守り）等をつなぎ合わせて有効に活用するための「舞鶴版Society5.0」の実装を推し進める。</p>	
<h3>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</h3> <p>舞鶴版Society5.0実装推進事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コワーキングスペースを活用した S D G s 推進事業 ② 多様な主体と連携して人材を育成する若者チャレンジ事業 ③ I C T を活用した防災・減災モニタリングシステム事業 ④ 日本初「共生型MaaS」(meemo) の推進事業 ⑤ A I - O C R や R P A 等DXを活用した行政運営の効率化 ⑥ 舞鶴版RE100を目指した、公共施設への再エネ・省エネ・畜エネ導入 	<h3>6. 取組成果</h3> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市民に分かりやすく防災情報を届ける「舞鶴市防災アプリ」の配信を開始し、配信後約半年で市民の約 1 割相当の8,300DLがあり、情報発信ツールとして機能し始めた。 ▶ 国や京都府のシステムとのデータ連携や発信情報（水位箇所）の拡充など防災・減災のモニタリングシステム機能を強化。 ▶ meemoを運営する「高野地域協議会」を立ち上げ、地域住民による持続的運営体制の確立に向けた基盤を整備。 ▶ 万願寺甘とう栽培におけるモニタリングデータの蓄積・分析が進み、温度や地温、日照と収穫量の相関関係が明らかになり、効果的な栽培方法が一定程度確立できてきた。同様に、分析されたデータを活用することで一部の病気の発生が予測可能となったため、病気の発生予報を実装した。 	
<h3>5. 取組推進の工夫</h3> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市と企業や教育機関等それぞれが人材や技術、資金等を持ち寄る仕組みとすることで、全てのステークホルダーが主体性をもって取り組む環境を創出し、実効性を担保している。 ▶ S D G s に係る市民への理解を促進するに取組については、特に次代を担う中学生や高校生等の理解促進を重要視しており、出前授業や講演等を通じて積極的に情報を発信している。 	<h3>7. 今後の展開策</h3> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地方回帰の機運の高まりを追い風と捉え、ワーケーション等を通じた人材の呼び込み等を一層強力に推進する。 ▶ meemoが公共交通を補完する地域の移動手段として機能していくよう、地域住民が主体となった「高野地域協議会」による持続可能な運営体制を確立する。 ▶ 万願寺甘とう栽培におけるモニタリングデータの蓄積と分析を進め、栽培方法の更なる高度化を目指すとともに、発生原因が判明していない病気（尻腐れ）の原因究明を行う。また、得られた知見を各生産者へ広げ、収穫量拡大や生産者の所得の安定化につなげるとともに、他の農産物や水産業等にも展開し、一次産業全体の発展を加速させる。 	
<h3>8. 他地域への展開状況（普及効果）</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 取組への取材を多数受け、メディアに取り上げられた。地方議会、地方自治体、大学等からの視察を多数受け入れている。 ▶ 本市と連携している企業等において、本市における取組事例をもとに、他の自治体と S D G s やスマートシティ等を軸とした連携に発展させるなど本市のモデル事業が他の地域にも展開されている。 	